

<p style="text-align: center;">撃 「げき」</p>	<p style="text-align: center;">八日市高等学校</p>
<p>八日市高等学校の部旗には「撃」の一文字が染め抜かれています。</p> <p>我が国の文献に剣道のことが初めて出てくるのは、日本書紀であると言われていています。「崇神天皇48年」の記述に「皇子が、山に登って槍を八回突き出し（八廻弄槍^{たびほこゆげ}）、刀を八回打ち下ろした（八廻撃刀）という夢を見た」という記述がありますが、この「撃刀（タチカキ又はタチウチと読む）」という言葉が、日本書紀が著された奈良時代の剣道の呼称であったようです。以後「撃剣」「太刀打」「兵法」「剣術」「剣道」時には「撓（シイ）競技」などその時々のお考え方や時代背景などを反映しながら呼び名は変遷しています。</p> <p>旧制八日市中学校で、武道専門学校を卒業された湯村哲明先生、西川源内先生に剣道の指南を受けられた海外貞雄先生など大先輩方が、昭和40年代の八日市高校道場によく来られ、「戦気」とか「撃」という言葉を用いて部員に指導をしておられたと聞きます。</p> <p>この「撃」という言葉は剣道の最も古い呼称に因むものということになりますが、私が昭和56年に八日市高校に赴任したときには、その年の3月の卒業生が寄贈した「撃」の部旗が道場に掲げられていました。</p> <p>その後、平成3年3月の卒業生が、大津市大谷の臨濟宗月心寺住職の村瀬明道尼和尚揮毫の部旗を新調し、さらに平成13年3月の卒業生が、当時の八日市高校書道教諭の西脇大雄先生に揮毫依頼して部旗を新調するなど、道場に掲げている部旗の傷みがひどくなるたびに何度も作りかえていますが、その銘文はいつも、歴代の部員たちがシンプルながら活気を感じ誇りにしている「撃」一文字となっています。</p> <p>八日市高校剣道部には、八段安田勉先生をはじめ名選手が何人も生まれていますが、みんなこの「撃」に励まされて来ました。これからの部員たちもこの言葉に勇気を与えられて稽古に打ち込んでいくことでしょう。</p> <p>「剣道」という言葉は江戸時代に一部の流派で使用されていたという。明治28（1895）年武道の統括団体として大日本武徳会が設立され、指導・発展・普及の努力がなされ、大正元（1912）年には江戸時代から伝わる各流派を統一した「大日本剣道形」が制定された。一方文部省は明治44（1911）年に中学校・師範学校の正課として柔道と剣道を採用した。廃刀令により顧みられることが少なくなった「剣術」を「剣道」とよび、人間教育の手段として普及しようとする努力が行われ、文部省関連の法規の中にも「剣道」という言葉が登場することなどにより、広く一般に「剣道」という言葉が使われるようになった。</p> <p>[「剣道指導ハンドブック」湯野正憲・岡憲次郎他（大修館書店）等参照]</p>	